

令和5年度 旭川歯科学院専門学校  
学校自己評価結果報告書（集計）

令和5年7月12日

1. 学校の教育目標

<p>&lt;教育目標&gt;○良き社会人を目指す ○豊かな心を磨く ○歯科衛生士としての優れた技を磨く                  &lt;基本方針&gt;*具体的な方策                  重点目標 学習指導・実習・実技及び行事などあらゆる学習活動において、謙虚さを育み、気節を鼓舞し、創造への意欲づけを図る。                  経営計画 職員全員が学校経営に積極的に携わり、個々の意見が反映する機運を尊重する。</p>
--

2. 本年度の重点課題（目標及び計画）

<p>1 教育 合格率100%（国家資格） 就職率100%                  2 コロナ感染発生に注意を払いながら、地域社会との密接な連携を保ち口腔衛生の普及に尽力し、積極的な社会貢献に努める</p>
--

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 建学の趣旨と教育の方針（教育理念・目標）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←←昨年
・学校の建学の趣旨と教育の方針は生かされているか。	4	3.4	3	2	1	3.3 3.4
・将来的展望を踏まえて学校の将来構想が描かれているか。	4	3.3	3	2	1	3.1 2.8
・学校の建学の趣旨・教育の方針・将来構想は学生・保護者等に周知されているか。	4	3.1	3	2	1	3.0 2.8

① 課題

- ・ 本学の教育方針の学生および親への周知が不十分。
- ・ 設備なども含め、時代の変化に対応していくことが大切と考える。
- ・ 学生数確保が困難な場合の対応について、今後、体制、定員数の検討が必要になる可能性がある。優秀な学生を入学させるための工夫も必要となる。
- ・ 教育の方針等、遠い将来構想については難しいが、在学期間内については、ある程度知っていると思う。
- ・ 少子化、社会変化に伴い、学生数確保ができない時にどうするか、社会ニーズを常に考え、それに対する教育内容の検討が必要。地域社会との密接な関りを積極的に行うこと。
- ・ 教育の方針の生かし方について、担任の指導内容に応じて学年間での差がややある。特に社会人としてのふるまいについて、覇気のある生徒を創造していただきたい。
- ・ 少子化やIT化などに対応した将来構想は、もう少し必要ではないかと思う。
- ・ 学校の教育方針等について、周知は難しい内容だと思うので、面談、全体説明、保護者説明など、もう少し増やしていいのではないかとと思う。
- ・ 社会ニーズへの対応。
- ・ 合格率100%に向けたサポート。旭歯管内での就職率向上。

② 今後の改善方策

- ・ 親に関心を持ってもらう方策を考える。
- ・ リニューアルされたホームページをうまく活用していきたい。
- ・ 年齢に関係なく、学生は学生なので、その都度、指導していけば良いと思う。
- ・ DHという職業が認知されつつあるが、今後さらなる啓発が必要、歯科医師会全体で活動していく。中止していた学校祭は次年度から再開する。
- ・ DHの職業的認知の啓蒙。
- ・ 以前、会議で上がっていた、登院試験に基礎科目も取り入れるかどうかなど、早期からの国家試験対策が必要。

③ 特記事項

- ・ 入学後、土曜日などに、親・学生を対象にしたオリエンテーションを開催してはどうか、特に親との連携を深めるための良い機会となるのでは。
- ・ 学生の人格を否定するような発言は、教育上不必要。
- ・ 旭川歯科医師会員への就職率upが望まれる。

## (2) 学校経営方針（学校運営）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・教育理念・目標に沿った学校経営方針が策定されているか。	4	3.4	3	2	1	3.2	3.1
・学校経営方針に基づき、組織は有機的に機能しているか。	4		3 (2.9)	2	1	3.1	2.6
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3.3	3	2	1	3.2	2.8
・地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか。	4	3.3	3	2	1	3.2	2.9
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3.3	3	2	1	3.3	3.2

## ① 課題

- ・ 人事、給与に関しては残業の部分があいまい。17時以降の机上業務に残業をつけられないのであれば、職員に帰るよう促さなければ、企業として法的に問題があると感じる。
- ・ 学校経営方針は教育理念・目標に沿って策定されている。管理職、教員、事務職員の連携を強化、全員で問題点を共有し、解決する姿勢をしっかりと持つ。人事、給与規定は整備されている。
- ・ コロナ5類移行に伴い、少しずつ状況を見ながら地域への関りを増やす。
- ・ 人的確保、個々の資質の向上を図り、組織を有機的に機能させるためにはどうするか。
- ・ コンプライアンスの遵守は十分をお願いします。
- ・ 人が足りない時代を迎えるにあたっての人材確保、情報共有、業務負担の軽減、運営の透明性の確保。
- ・ 教員の給与について。

## ② 今後の改善方策

- ・ 学内での意思統一、会全体での連携。
- ・ 教育活動については、SNS、HP等で積極的に発信していく。また、担当者が決まっていなければ決め、毎日更新するぐらいでもいいと思う。
- ・ グループウェア等のアプリケーション導入を検討。
- ・ 講習会参加や教員としての習熟度合いによっては給与のレベルアップを図るなどを検討する必要があると思われる。

## ③ 特記事項

- ・ 給与検討のためには入学者数の増加が必要。
- ・ 概ね良好と思います。

## (3) 教育活動（各学年指導計画）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・教育理念・目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3.3	3	2	1	3.1	2.9
・カリキュラム（実習等を含む）は体系的に編成され、学習時間の確保が行われているか。	4	3.3	3	2	1	3.2	3.1
・成績評価・単位認定・進級・卒業の基準は明確化されているか。	4	3.4	3	2	1	3.3	3.0
・教育の方針（人材育成）達成に向けた授業担当教員を確保しているか。	4		3.0	2	1	2.7	2.4
・教員の先端知識・技能等の習得及び指導力育成などの資質向上のための取り組みは行われているか。	4		3	2 (2.4)	1	2.6	2.3

① 課題

- ・ 授業担当教員については人材不足。
- ・ 教員の指導力育成のための取り組みについては、教育機会が不足。
- ・ 学生指導を行う教員の教育体制が課題。
- ・ 授業担当に関して、もう少しゆとりをもって（時間・内容）、授業の準備がしたい。
- ・ 教員の資質向上については、学生の対応、授業で、正直、パンク状態です。
- ・ 3科以外の総合試験、国試対策を講師の方をお願いしたい、それでも教員は暇ではありません。
- ・ カリキュラムの現状を考え、今後、検討していく。経験の浅い教員の教育体制を整え、質の向上を図る。
- ・ 変化する考え方への対応、新しい技術をいかに導入するか。
- ・ 変化する歯科医療への対応。
- ・ 人材確保、カリキュラム再構築。
- ・ 教員のレベルアップ

② 今後の改善方策

- ・ カリキュラムの見直しを行う時が来ているので委員会を立ち上げる。
- ・ 研修会への参加等、学校内だけではなく教員育成の工夫が必要。
- ・ 課題に対して、前向きに進めてほしい。
- ・ 校外研修、学会への参加、校内研修の充実。（3年間、コロナ禍の制限があった）
- ・ 研修会や学会への参加、校内研修等の実施。
- ・ 人材への投資。
- ・ 教員の先端知識・技能等の習得及び指導力育成などの資質向上のための取り組みを積極的に行う必要がある。

③ 特記事項

- ・ 教員には大変苦勞をかけている。以前より教員間の連携の必要性を説いているが、自分の意見を押し付けるのと教育は別次元である。
- ・ 教員の待遇改善が必要だと思う。
- ・ カリキュラム検討会を立ち上げ、協議していく。

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←←昨年
・ 就職率の向上が図られているか。	4	3.6	3	2	1	3.6	3.6
・ 国家試験合格率の向上が図られているか。	4	3.5	3	2	1	3.5	3.0
・ 退学率の低減が図られているか。	4	3.6	3	2	1	2.8	2.8
・ 卒業後の生徒のフォローアップがなされているか。	4	3.4	3	2	1	2.7	2.6

① 課題

- ・ 学業不良だからと言って退学方向に指導することは厳に慎まなければならない。このようなケースは、担任と管理職、親とで、早めに対応すること。
- ・ 今年度は残念ながら全員合格にはならなかったが、善戦したと思う。
- ・ 卒業後のフォローアップは、現時点では難しいが、将来的には必要となる。学生との距離感が学年によっても異なるため、担任だけでなく学校として行う必要がある。
- ・ 退学については、個々の把握、悩みに対する寄り添い、生活指導の強化が必要。卒業後は元担任を中心に、相談があれば対応を迅速にする。
- ・ 1年次から基礎力のupをいかに図るか。
- ・ 衛生士になるまでも、なつてからも、挫折させないようにする。
- ・ 個別指導、卒後教育の充実。
- ・ 学校になじめない生徒への対応。
- ・ 卒業生へのフォローアップ。

② 今後の改善方策

- ・ 定期的に情報発信を行う。
- ・ 模試等を細かく分析、1年時から成績下位の学生に介入し、学生の能力に応じた対応が必要。
- ・ 先の道筋を明確に示す。特に卒後2、3年目に何かしらのフォローがあった方がいいかもしれない。
- ・ 入学時学力低位者への注力、卒業生との積極的なコミュニケーション。

- ・ 退学率に関しては、いざ入学してみると自分のしたいこととは違ったというはあると思うので、ある程度仕方ないことと考える。入学してもなかなか出席できない子などに関しては、オンライン授業も可能にしたりすることで、少しずつ授業に参加できるように促すことも必要と考える。
- ・ 卒業生に関しては、DH 向けのオンラインセミナーもたくさんある中で、そういった情報を HP に張り付けるなどして活用してもらいたいと思われる。
- ・ 就職率に関しては問題ないと思われるが、旭歯管内での就職率を上げるにはどうすべきかを検討する必要がある。

③ 特記事項

- ・ 特に今の若者は短絡的にすぐあきらめる傾向にあり、本校に入学した意義を理解させることが必要となる。
- ・ 就職希望者は毎年、全員就職できている。
- ・ 国家試験に合格できなかった生徒が次年度には合格できている現状を考えると、そういった意味での卒業後のフォローはできていると思われる。

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←一昨年
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3.5	3	2	1	3.5 3.1
・ 学生の相談に対する体制は整備されているか。	4	3.2	3	2	1	3.2 3.1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3.1	3	2	1	3.2 3.1
・ 学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3.3	3	2	1	3.2 3.0
・ 学生の生活環境への支援は行われているか。	4		3.0	2	1	2.9 2.8
・ 保護者と適切に連携しているか。	4	3.2	3	2	1	3.2 2.9
・ 卒業生への支援体制はあるか。	4	3.1	3	2	1	2.6 2.5

① 課題

- ・ 学生の相談に対してはモチベーションの向上及び精神面のフォローアップが必要となる。
- ・ 進路・就職支援に関して、福利厚生の部分で、歯科国保と社会保険の違いをわかりやすく説明してあげるべき。病気による自宅療養や出産も保障されるのか、など。
- ・ 地方学生への配慮を検討。学生の生活支援には限界がある。保護者との連携も私的要素もあり限界がある。卒業生への支援は、いつでも相談可だが、同窓会や衛生士会との連携も必要。
- ・ 経済状況の悪い家庭もあり、就学困難な状況になった時の援助をどうするか。
- ・ 早期離職が多い。
- ・ 経済的支援

② 今後の改善方策

- ・ 会として、返還義務のある奨学金はどうか。(免除規定も含め会員診療所との連携も考える)
- ・ 社会人としての自覚を持たせる研修。
- ・ 現在の社会状況を考えると、社会全体での貧困層が増えていくと考える。そういった中で専門学校に入学できないといった高校生が増えるのではないかと考える。奨学金・補助金等の検討を幅広く行う必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←一昨年
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4		3.2.9	2	1	3.2 3.2
・ 学内外の実習実施施設等について十分な教育体制を整備しているか。	4		3.0	2	1	3.0 3.1
・ 防災に対する体制は整備されているか。	4	3.4	3	2	1	3.4 3.1

① 課題

- ・ 施設・設備について、新築から18年経過し、ユニットなども劣化が目が出て来ました。
- ・ X線装置のデジタル化も必要だと思います。
- ・ 3Fの第2基礎実習室の整備が途中になっているため、使用機会が限られており、柔軟に時間割を作成することができておりません。今後、カリキュラムを見直す上でも計画的に整備を進めていただきたいです。
- ・ 実習先の不足は無いが、実習先での教育体制にバラツキがある。
- ・ 実習器具など古くて汚れている。材料も変色し、高価なものも含め、期限切れが当たり前になっている。
- ・ 実習先により教育内容に違いがあり、そのバランスをどうするか。その施設の特徴をいかに把握するか。
- ・ 授業、実習の効率化。
- ・ 教職員の業務負担軽減、教育DXの推進。
- ・ ファントム実習の器材が十分とは言えない。

② 今後の改善方策

- ・ 模型実習室の整備をすすめたい。
- ・ 実習先診療所との連携強化。
- ・ 防災マニュアルの作成。
- ・ 連携強化、反省会での問題提起、マニュアル化。
- ・ IT活用、マニュアル化。
- ・ IT設備活用による利便性、効率性の向上。設備にかかるコスト面の検討。
- ・ 器材については、早期に改善する必要がある。

③ 特記事項

- ・ 毎年、防災訓練を実施している。
- ・ 模型実習室のエアークリアの整備を検討。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 学生募集活動は適正に行われているか。	4	3.5	3	2	1	3.2	2.9
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3.5	3	2	1	3.2	2.8
・ 学費等納入金は妥当なものとなっているか。	4	3.3	3	2	1	3.4	3.2

① 課題

- ・ コロナ収束のなか、OC、相談会等積極的に、オンラインも活用。専門学校、小さな単科の学校の良さをアピール。様々な物価上昇もあり、学費については今後、細かな検討が必要。
- ・ 少子化が進む中、いかに学生を集めるか。
- ・ 少子化によりますます学生の確保が困難になる。
- ・ 本学のプランディング、他学校との差別化。
- ・ 学生募集に関し他の要素は取り入れられないか。
- ・ 物価高における学費の妥当性。

② 今後の改善方策

- ・ DH、DT会、同窓会との連携を模索する。
- ・ 学費等納入金について、物価上昇、入学者数、学院運営を鑑みて決定していくべきだと思います。
- ・ 地方から入学を検討する学生に対する支援。
- ・ さらなる情報発信の強化、価格競争に陥らないこと。
- ・ SNSの活用など。
- ・ 学費の引き上げは避けて通れないと思われる。

③ 特記事項

- ・ 入学促進係に人員を配置し十分に機能している。OCにも在校生の協力をいただき、効果を発揮している。

## (8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・中期的に学校の財政基盤は安定しているか。	4	3.5	3	2	1	3.2	2.8
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3.4	3	2	1	3.3	3.1
・財務について会計監査が適正に行われているか。	4	3.6	3	2	1	3.5	3.5
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3.5	3	2	1	3.2	3.1

## ① 課題

- ・学校の財政基盤については、学生数の減少傾向が続けば、将来的に厳しくなっていく。予算・収支計画について、入学促進事業の詳細な検討が必要。
- ・学生数減少が続けば、長期的に経営困難になる。
- ・学生数が減少した場合、厳しくなる。
- ・学生数の維持。
- ・財政確保

## ② 今後の改善方策

- ・まずは学生数増だが、学費検討も必要になる。
- ・継続的な学生数の確保。
- ・入学促進体制の強化。
- ・財政確保に向け資金の運用など検討する必要があると思われる。

## ③ 特記事項

- ・本校は学生数に大きく影響される体質となっている。
- ・財務に関しては、教員には「わからない」との回答も多く、回答がなかったものもあり除外して平均を出している。

## (9) 地域社会貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・臨地実習等を通して生徒・教員による地域社会貢献を行っているか。	4	3.1	3	2	1	3.1	2.9

## ① 課題

- ・コロナ感染の状況により、ほとんど実施できなかった。
- ・コロナ禍で制限されていた活動の再開。
- ・コロナ禍でしばらく行えなかった。
- ・アフターコロナ期における社会貢献のあり方。

## ② 今後の改善方策

- ・With コロナのなか、学校祭の再開など。地域貢献に対する教員の意識向上を図る。
- ・具体的に何が社会貢献なのか明確にする。
- ・どこまで以前のような形でできるのか、模索検討。

## ③ 特記事項

- ・子どもから高齢者まで幅広い啓蒙活動が行われると思われる。

## (10) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運用がなされているか。	4	3,7	3	2	1	3.5	3.5
・個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか。	4	3,4	3	2	1	3.1	2.9
・学校自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3,3	3	2	1	2.9	2.9
・学校自己評価結果を公開・活用しているか。	4	3,5	3	2	1	3,3	3.3

## ① 課題

- ・ 自己評価の実施を行っているが、問題点の改善を図っていない。
- ・ 学校自己評価を実施し問題点の改善途上である。学校自己評価について、活用がまだ十分ではない。

## ② 今後の改善方策

- ・ 一つ一つの問題点を検討し、協議を始める。

## ③ 特記事項

- ・ コロナにより外部評価委員会が実施されておらず、本年は実施し、外部の意見をお聞きしたい。